

第 40 回土木計画学研究発表会（秋大会）：2009 年 11 月 21 日～23 日（金沢大学）
セッション討議内容の記録

セッション名：公共交通（2）	
日付：11月21日（土）曜日、セッション時間：16：45～18：15	
司会者名（所属）：轟朝幸（日本大学）	
討 議 内 容	セッション全体： 本セッションは都市部のバスサービスについて住民や事業者化らの評価について主に発表があった。計画・運営・運行の主体による違いや、モビリティ確保の施策へどうつなげるかといった点が共通する論点であった。
	（148）杉浦 晶子（名古屋大学）： 名古屋公営バスの評価に関する発表があった。 営業係数が改善された理由について質問があり、合理化が一番の理由ではないかとの見解。また「公」と「公営」の役割のちがいについて討議があった。
	（149）長洲 扶幹（日本交通技術）： 富田林市の公共交通（バス）サービスの実態と市民意識について発表があった。アンケート回収率が 30%であり、それが興味そのものの大きさではないかとの指摘があった。当初の見込みより大きな値であり、興味は高いとのことであった。
	（150）坂本 邦宏（埼玉大学）： 事業者が使うことを目的としたバス計画における乗車人員予測システムの開発について発表があった。バス事業がこんなに遅れていること、住民意見・要望の取り入れ方などについて討議があった。